

林 重雄¹：愛知県田原市に南方系果実や種子の漂着

Shigeo HAYASHI¹：Tropical drift seeds and fruits stranded on the beach of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

筆者は2000年より愛知県渥美半島にある堀切海岸において継続的な漂着物調査を行っている。特に春から秋にかけての海から陸に向かって吹く南風が優勢な時期には、月に2回ほどの調査を継続している。堀切海岸は黒潮によって運ばれた「椰子の実」で有名な伊良湖岬から6 kmほど東に位置する太平洋に面した直線的な砂浜海岸である。また、堀切海岸をはじめ、渥美半島の太平洋側には砂浜海岸が連続し、アカウミガメの産卵地としても知られている。

台風9・10号通過後の2012年8月、愛知県田原市堀切海岸で大量の南方起源の漂着物の中から、愛知県では初記録種となる3種類を含む合計11種類の南方起源の果実や種子を確認したのでここに報告する。

漂着記録

筆者は2012年8月6日、愛知県田原市堀切町（図1）で漂着物の調査中に多数の南方起源の漂着物を確認した。

これらの漂着物は発見当日の高潮線よりも高い位置にある大潮時の高潮線を中心に漂着していた。特に目立ったのは生産国の判明したベトナム製品で、ベトナム語表記の大型ウキが3個、ペットボトルが6個であり、これはかつてないベトナム起源の漂着物の多さであった。他にも数多くの台湾製品や中国製品の漂着も認められた（林 重雄ブログ）。

漂着果実や種子では、ハテルマギリ *Guettarda speciosa*, ビンロウジュ *Areca catechu*, *Gigasiphon macrosiphon*, ミフクラギ *Cerbera lactaria*, ゴバンノアシ *Barringtonia asiatica*, ソテツ *Cycas revoluta*, ハスノハギリ *Hernandia sonora*, ハマナタマメ *Canavalia lineata*, カントンアブラギリ *Aleurites montana*, シナアブラギリ *Aleurites fordii* 及びモモタマナ *Terminalia catappa* を確認した。

これらの果実や種子の中で愛知県では初記録種となるハテルマギリ、ビンロウジュ、*Gigasiphon macrosiphon* の3種については詳細を報告する。

ハテルマギリ *Guettarda speciosa* (Rubiaceae アカネ科) は熱帯アジアからポリネシア、オーストラリアの海岸に生育する小高木で、宮古島が北限である。分布域の八重山諸島ではふつうに漂着しているが、日本本土では稀で、高知県から知られているのみである（中西 1999）。漂着個体は直径21.5mm、高さ15.2mmの扁球形で、褐色の表面には繊維質の中果皮があり付着物は認められなかった（図2）。

ビンロウジュ *Areca catechu* (Arecaceae ヤシ科) の原産地はマレー半島で、インドや東南アジアで栽培されるヤシ科の高木で、日本への漂着は極めて稀で山口県と長崎県から知られているのみである（中西 2009）。ビンロウジュの種子は、アジアでは檳榔と呼ばれ嗜好品となっている（小泉 1987）。漂着個体は破損した内果皮で、繊維状の中果皮が無くなっており計測はできなかった。この破損は人為的に種子を取り出したときのものと思われる。なお内果皮の内側にはコケムシ類の付着が認められた（図3）。

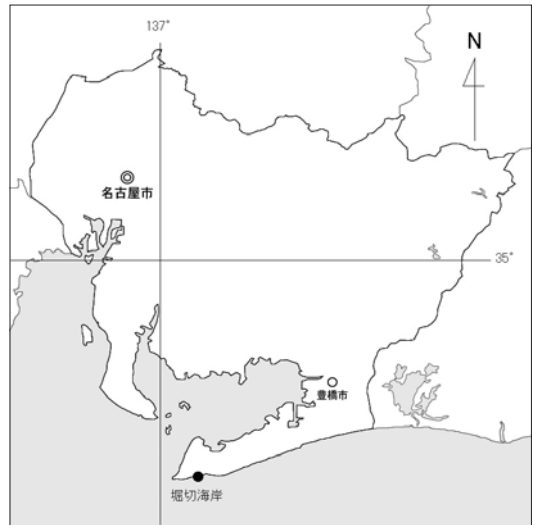


図1 田原市堀切海岸の位置。

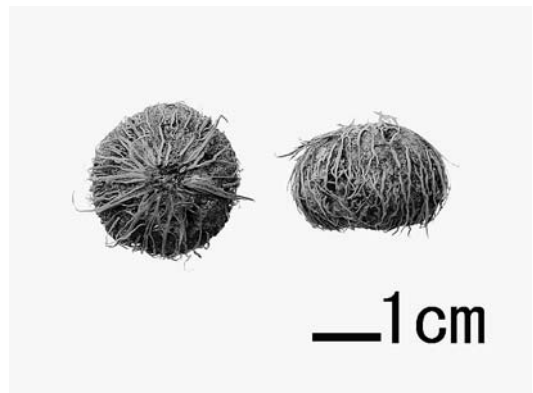


図2 愛知県田原市堀切町に漂着したハテルマギリ *Guettarda speciosa*。

Gigasiphon macrosiphon (Fabaceae マメ科) の原産地はアフリカ大陸であるが、ハワイやフロリダでも植栽が行われている(加藤 2009)。日本での漂着は南西諸島や奄美大島から知られているのみである(加藤 2009; 奄美大島漂着豆の資料室ホームページ)。漂着個体は長径32.6mm, 短径30.3mm, 厚みは15.3mmの扁球形で、赤褐色で光沢のある表面にはエボシガイ類の付着痕跡が認められた。本種には最大部で6mmにもなる幅の太い、外周部をとりまく特徴的なヘソがあり、その延長は109mmある外周の86%に及ぶ89mmであった。本種を *Mucuna* sp. とする文献もあるが(Gunn and Dennis 1976), 最近の研究報告(加藤 2009)に従い *Gigasiphon macrosiphon* とした(図4)。

考察

発見当日の満潮は午前7時44分、潮位は166cmであった。なお8月2日の大潮や翌日には潮位が184cmを記録しており、堀切に近い伊良湖岬の気象データ(気象庁ホームページ)によれば、8月2日から3日にかけて南南東の風が優勢で最大風速は5.7mであった。堀切で散見された南方起源の漂着物は、他の漂着物と一緒に大潮時に風の影響を受け高潮線へ打ち上げられたものであろう。

また7月の海流図を参照すると、黒潮は潮岬で本州に最接近した後に大きく蛇行することなく東に向かっていく。そのため逆流も愛知県沿岸に接近しやすくなり(海洋情報部ホームページ)、黒潮の流路の特異性と、7月後半に発生した台風9号と10号によるうねりの強さが南方起源の漂流物の漂着の一助になったと考えられる。

謝辞：本稿をまとめるにあたり長崎教育大学の中西弘樹教授には同定への助言を頂いた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げます。

引用文献

- 奄美大島漂着豆の資料室。(http://www.asahi-net.or.jp/~ry6j-sgn/0F8D11E3-ACDA-4732-B63D-79890284F22C/629DE319-765F-460D-B1D5-0858043DDE95.html)
- Gunn, C. and Dennis, J. 1976. World Guide to Tropical Drift Seeds and Fruits. 246pp. The New York Times Book Co, New York.
- 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (http://beachcomb.exblog.jp/)
- 海上保安本部 海洋情報部ホームページ。(http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/2012cal/cu0/qboc2012128cu0.html)
- 加藤詩邦 2009. 宮古島に漂着する *Gigasiphon macrosiphon* ついて. どんぶらこ29: 8-9. 気象庁ホームページ。(http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html)
- 小泉武夫 1987. 奇食珍食. 190pp. 中央公論社, 東京.
- 中西弘樹 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.
- 中西弘樹 2009. ビンロウジュ *Areca catechu* L. (ヤシ科) の果実の漂着. 漂着物学会誌 7: 43-44.

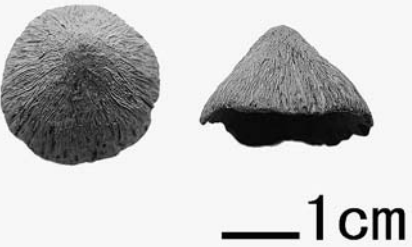


図3 愛知県田原市堀切町に漂着したビンロウジュ *Areca catechu*.



図4 愛知県田原市堀切町に漂着した *Gigasiphon macrosiphon*.

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町 3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan

(Received Aug. 22, 2012; accepted Sept. 12, 2012)